

第1回 名護市総合交通ターミナル検討部会 議事録

1. 開催日時：令和6年7月9日（火）15：00～17：00
2. 場 所：名護市民会館中ホール及びWeb
3. 出席者：○委員
神谷 大介 琉球大学工学部 准教授【部会長】
羽藤 英二 東京大学大学院工学系研究科(工学部)教授 (Web)
林 優子 名桜大学 副学長
前田 裕子 名護市観光協会 理事長
大城 直人 一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 専務理事
慶田 佳春 一般社団法人沖縄県バス協会 専務理事 (Web)
小川 吾吉 株式会社琉球バス交通 代表取締役
鹿毛 建造 那覇バス株式会社 副社長
新川 幹雄 沖縄バス株式会社 代表取締役 (Web)
比嘉 良尚 東陽バス株式会社 運輸部長
谷田貝 哲 合同会社やんばる急行バス
宮城 敦 株式会社北部観光バス 常務取締役
運天 健 株式会社丸金交通 代表取締役 (Web)
北崎 祐一 第一マリンサービス株式会社(代理出席)
島袋 健 名護警察署 交通課長(代理出席)
亀谷 匡哉 沖縄総合事務局 運輸部 企画室長
関 信郎 沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官
屋我 直樹 沖縄総合事務局 北部国道事務所長
具志堅 清一 沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課長
久場 兼治 沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課長
西里 雅範 沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課(代理出席) (Web)
當眞 和彦 沖縄県 北部土木事務所 技術総括
金城 伸祐 沖縄県 企画部 交通政策課 公共交通推進室長(代理出席) (Web)
兼次 孝彰 沖縄県 北部農林水産振興センター 農業水産整備課長
岸本 啓史 名護市 建設部長
○事務局
名護市建設部まちなか再開発・公共交通課
内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所調査課

4. 議事要旨：

- 委員：総合交通ターミナルは、名護市民だけでなく北部地域全体の移動を支える圏域の拠点として、具備すべき機能や役割を検討していく必要がある。名護市に加え、沖縄県や北部地域の他自治体の意見も取り入れながら検討していくことが重要である。
- 委員：本検討部会で想定される総合交通ターミナルは、自動車ターミナル法に基づく施設か、道路法に基づく施設か、どちらを想定しているか。
- 事務局：バス等が発着する交通施設部分については、道路法に基づき整備することを想定している。

- 委員：管理運営の方法についてはどのように考えているか。
- 事務局：本日は、地域の現状や課題、ポテンシャル等を整理している。今後の進め方（資料5）に記載している通り、総合交通ターミナルをどのように整備し、管理運営していくかについては、これから議論し検討していく予定である。
- 委員：既存の名護バスターミナルは、開業当時の市街地やバス事業者等の状況を鑑み、現在の位置に整備された経緯がある。時代のニーズに即して利便性の向上を図ることも重要である。
- 委員：観光客だけでなく、学生も含めた市民の自由な移動を確保していくため、公共交通をどのようなデザインにすべきか、北部地域の豊かな自然環境を守るという視点も含めて検討することが必要。
- 事務局：名護市では、名桜大学も含んだコミュニティバス（南北線）を走らせていたが利用者が少なく浸透しなかったため、現在では循環線を本格運行している。大学の送迎バスでは拾いきれない学生たちをどうしていくかについても考えていく必要がある。
- 委員：地域住民や学生、観光客等の移動ニーズは多岐にわたるため、公共交通サービスをどう上手く使っていくかもポイントである。移動手段を利用者に効果的に発信し、利用者側で取捨選択できるように情報環境を整備していくことも重要である。
- 委員：パークアンドライド、ライドシェア等も含め、様々な交通サービスを総合的に検討していくべきである。
- 委員：環境負荷や交通混雑等を踏まえると、レンタカー等の自動車依存から公共交通利用に転換することが必要である。総合交通ターミナルの整備により、地域間交通とローカルな移動手段を結ぶことに意義がある。単なる乗換拠点としての機能だけではなく、交流や防災といった機能も考慮し、周辺の市街地整備や区画整理事業と組み合わせて検討すべきである。
- 委員：海との近接性は、全国で進められているバスタ事業でも他に例はなく、名護市の総合交通ターミナルの個性であると言える。「やんばるの玄関口」として“海のバスタ”というフレーズも盛り込みながら、人々の文化・交流の拠点として位置づけていただきたい。
- 委員：総合交通ターミナルの整備に関して、名護市民やその他北部地域の方々の機運醸成を図るため、名護漁港周辺を拠点に、やんばる地域への回遊を促進するような社会実験等にも取り組んではどうか。
- 委員：高速船の利用者からは、下船後の移動手段がないという意見も出ている。総合交通ターミナルが整備されることで名護漁港の利便性が改善されることに期待している。
- 事務局：高速船の利便性という点では、スムーズに下船できるよう浮棧橋（約35m）を整備する予定である。
- 委員：自動車交通依存の状況に対しては、TDM（交通需要マネジメント）等の方策も取り入れながら改善方策を検討する必要がある。
- 委員：周辺自治体との公共交通の連携や、本部港等のクルーズバスとの棲み分け等についても、実施主体に確認していく必要がある。
- 事務局：公共交通連携やクルーズバスに関しては、次回検討部会までに確認する。

- 委員：北部地域まで高速バス等の公共交通で移動し、そこからレンタカーに乗り換えることができると利便性も高まる。レンタカー事業者等の意見も収集し検討していくべき。
- 委員：総合交通ターミナルにシェアサイクルがあると利便性が高い。名護市内で自転車利用環境整備が進められているため、政策としての親和性もある。
- 委員：バス等による広域的な地域間移動と、レンタカー等による地域内移動とが効果的に連携できることで、公共交通の利用促進や地域経済の活性化にもつながると考えられる。実態としてどのような移動ニーズがあるのかについても把握できるとよい。

以上